

衆議院予算委員会ニュース

平成 20.1.28 第 169 回国会第 2 号

1 月 28 日、第 2 回の委員会が開かれました。

- 1 平成 19 年度一般会計補正予算（第 1 号）
平成 19 年度特別会計補正予算（特第 1 号）
平成 19 年度政府関係機関補正予算（機第 1 号）
- ・福田内閣総理大臣、増田総務大臣、額賀財務大臣、舛添厚生労働大臣、甘利経済産業大臣、冬柴国土交通大臣、鴨下環境大臣、町村国務大臣（内閣官房長官）渡辺国務大臣（行政改革・公務員制度改革担当大臣）大田国務大臣（経済財政政策担当大臣）及び政府参考人並びに参考人に質疑を行いました。
- （参考人）日本銀行総裁 福井俊彦君

（質疑者及び主な質疑内容）

園田博之君（自民）

- ・ダボス会議において福田内閣総理大臣は地球温暖化問題について新たな枠組みを提唱されたところであるが、ダボス会議出席の成果はあったのか。
- ・「経済財政運営と構造改革に関する基本方針 2006」において 2011 年度における国・地方の基礎的財政収支の黒字化が示されているが、厳しい財政状況のなかでの財政健全化について福田内閣総理大臣はどう考えるか。
- ・少子高齢化が進展する中で社会保障関係費の増加をめぐる現状と今後の状況について福田内閣総理大臣及び舛添厚生労働大臣はどう考えるか。
- ・更なる道路整備の必要性を認めつつ、今後 10 年間で道路整備にある程度の目処をつけ、道路特定財源に係る暫定税率の延長を今回限りとする事について冬柴国土交通大臣はどう考えるか。
- ・最近の急激な原油価格の高騰にかんがみ、中長期的に脱石油のエネルギー政策に取り組む必要性について福田内閣総理大臣はどう考えるか。

遠藤利明君（自民）

- ・これからの社会福祉の在り方について、税金を上げない代わりに国のサービスの質を落とすのか、サービスを維持する代わりにある程度の負担増を国民にお願いするのか、福田内閣総理大臣は、どのように考えるのか。
- ・国防、エネルギーが共に自給できていない我が国の現実を踏まえ、食糧の外国依存もやむをえないと考えるか、食料くらは自給率を高めなければならないと考えるか、福田内閣総理大臣は、どのように考えるのか。
- ・スポーツ振興策について、福田内閣総理大臣は、どのように考えるのか。

北側一雄君（公明）

- ・サブプライムローン問題が世界市場に影響を及ぼしているが、市場安定化のため国際協調による今後の対応策について、G7 に額賀財務大臣はどのような方針で臨むのか。
- ・個人消費拡大の観点から拡大する企業収益を賃金に反映すべきとの考え方について福田内閣総理大臣及び大田国務大臣（経済財政政策担当大臣）はどう考えるか。
- ・所得の向上と雇用の安定の観点から雇用に力を入れた労働法制の改正が必要と考えるが、福田内閣総理大臣はどう考えるか。

菅直人君（民主）

- ・福田内閣総理大臣が考える、国会の第一の役割とは何か
- ・どうして道路だけを特定財源とするのか、受益者負担というが、車の保有者だけでなく物流などを含めればほとんどの国民が道路の便宜を受けているのではないかと考えるが、福田内閣総理大臣及び額賀財務大臣はどう考えるか。
- ・道路特定財源は道路族に優先され、必要な道路にはまわっていないのではないかとこの疑問に対し、増田総務大臣及び冬柴国土交通大臣はどう考えるか。
- ・ダボス会議において福田内閣総理大臣は国別総量目標設定を提案されたが我が国の目標は何年までにどれ位なのか、福田内閣総理大臣にお聞きしたい。

松本剛明君（民主）

- ・年金記録問題における、「ねんきん特別便」の発送・回答状況と問題点について舛添厚生労働大臣はどう考えるか。
- ・地方交付税交付金の算定に当たり、税収の見積もりを誤

った原因はどこにあるか、またその責任問題についてどう考えているか。

- ・道路特定財源の暫定税率廃止により、地方分が大きく削られてしまうため、地方に負担が大きくなるように制度を改めるべきではないか。

細野 豪志君（民主）

- ・サミットにおいて我が国が地球温暖化対策のリーダーシップをとることについて、内閣総理大臣の決意をお聞きしたい。
- ・道路特定財源の暫定税率の維持が地球温暖化防止に寄ると福田内閣総理大臣は何度も発言されているが、なぜ道路特定財源の暫定税率を維持すると地球温暖化防止につながるのか、その理論について教えていただきたい。
- ・歳入法案である税制関連法案について、議員立法によって提出するのは財政法に規定された内閣の予算提出権の規定に違反すると考えるが、福田内閣総理大臣の考えはどうか。
- ・特別会計等における「埋蔵金伝説」について、首相は存在すると考えるか。また、存在するならば、特別会計等の資産を精査し財政健全化に寄与させる必要があるのではないか。

高橋 千鶴子君（共産）

- ・後期高齢者医療制度では、受けられる医療を年齢で区別されるのか、1ヶ月に受けられる医療は制限されるのか、また日常生活が困難になった場合、高齢者の6割以上が病院での治療を望んでいるが、これらの問題について舛

添厚生労働大臣はどう考えるか。

- ・年金だけが頼りという所得の少ない高齢者が多い中、保険料を年金から天引きすることに対して舛添厚生労働大臣どう考えるか。
- ・国保料が払えず資格証を発行されている高齢者に対し以前機械的な対応はしないとの答弁だったが、後期高齢者の実状に沿って資格証の発行をやめることに対して福田内閣総理大臣はどう考えるか。

阿部 知子君（社民）

- ・排出権取引の経済的メリットについて、福田内閣総理大臣はどう考えているか。
- ・治療の長期化、複数疾患の罹患等、後期高齢者の心身の特性の概念を見直すことについて、福田内閣総理大臣及び舛添厚生労働大臣はどう考えているか。
- ・後期高齢者医療制度について、新制度施行後の保険料がどのように変わるのか、全国的なデータがないことに問題があり、今後調査する必要があるのではないか。

糸川 正晃君（国民）

- ・原油高が続き経済成長に悪影響をもたらした場合には政府として対応を取るべきと考えるが福田内閣総理大臣はどう考えるか。
- ・道路特定財源の暫定税率を規定する租税特別措置法等について、いわゆる「つなぎ法案」を先に通してしまうのではなく、立法府において税制関連法案をしっかりと審議する必要があるのではないか。